

## 達人リコメンドの四国(四万十編)

### 中村(高知県四万十市)

高松在住の頃、中村・宿毛と聞けば、地の果てだと思っていました。当時、高速道路は、三島川之江から土居の間だけで、一般国道を利用して、高松から松山まで3時間半、高知まで3時間というのが標準で、高知から中村も100km以上あって土佐市内を抜けるのに苦勞するから、下手すれば4時間の行程で、運転するだけでヘトヘトになってしまいました。

高速網が発展し、一般国道が整備された今では、須崎まで高速道路、道の駅「かわうその里すさき」か「あぐり窪川」で休憩すれば、ゴキゲンを保って中村に到達できます。

さて、中村は、幡多地区の中心で、四万十川観光や清水・宿毛への出張の拠点として人が集まる場所です。平成の大合併では、中村市と西土佐村で四万十市に。おまけに窪川町・大正町・十和村で四万十町と名乗ったので、旅行者としては混乱を招くばかりです。いずれにせよ、最後の清流と呼ばれる四万十川を誇りに思っている地域であるのは間違えありません。旅するなら、ともかく四万十川を満喫しましょう。



まずは、道の駅「あぐり窪川」で「196kmの天の川マップ」を貰うことからスタート。源流を捜しに不入山(いらずやま)を登るもよし、中流域で沈下橋を探すもよし、下流域で遊覧船に乗ったり、夏場なら沈下橋から清流に飛び込んだり、キャンプ場などの施設も充実していますので、お好みの旅を組み立ててみて下さい。



私の選択は、ここから四万十川の流れに沿って、橋を巡る旅。上宮沈下橋から茅吹手沈下橋、近隣の家から持ち寄った「こいのぼり」を川の上を渡す旧十和村役場付近(失礼ながら、初めてこの姿を見た時は、こいのぼりのメザシ状態、なんて決めつけましたが・・・)また、平家の落人が住みついて、その名を懐かしみ「平」という文字の上の一を下におろして「半」という字に変えた半家(はげ)地区では、新しく建設された橋から古い沈下橋を展望。江川崎の真っ赤なトラス橋からは、滔々と流れる姿に感動を覚え、最後は遊覧船に乗って三里沈下橋をくぐって、佐田沈下橋を眺めて一日を終了しました。



宿泊は駅前の民宿で、カツオのたたきに清水鯖、四万十川の鮎の塩焼きに川海老のから揚げ、天然のうなぎ、青さのりなどをつまみに一杯。最後は世界一の香り米・仁井田米の炊きたてごはんでお腹を起こせば、生きてて良かったと実感・・・幸せです。

誰もが認めるとはと思いますが、大自然に抱かれ、その流れを静かに眺めていると時間が止まったかの如く錯覚してしまう四国最長の河川・四万十川を達人リコメンドの清流として勝手に認定します。最後の清流が永遠でありますように。

平成23年5月10日記(旅は5月1日～5日)

Top  
トップ  
↑

Back  
戻る



達人リコメンドの四国～エンド・エクスプローラ  
二